

平成27年度 奈良市の地域教育を考える懇談会の意見の概要	
開催日時	平成 27年 7月 31日 (金) 午前10時30分から12時まで
開催場所	奈良市役所 北棟2階 第16会議室
意見等を求める内容等	・「奈良市地域教育推進事業」が各地域で評価ができる体制の構築のための意見を聴く。
参加者	出席者 8人 ・ 事務局 15人
開催形態	公開 (傍聴人 0人)
担当課	学校教育部 地域教育課
意見等の内容の取り纏め	
<p>1. 教育長挨拶</p> <p>日頃の活動へのお礼。奈良市は学校と地域との連携が進んだ地域であるが、課題として、例えば、放課後子ども教室が民生児童委員に任せきりとなっている状況や、PTAの加入が減少している状況が見られる。地域活動の盛り上がりとは逆に、学校やPTAが協力できているのか。地域教育を考えていく場合に、地域が支えている方の声をどれくらい聴くことができ、反映させることができているのか。市の施策に対応した実効性についても、改めて考える時期が来ている。</p> <p>2. 地域教育課課長 委員会が懇話会となった経緯等について説明。</p> <p>3. 自己紹介</p> <p>4. 座長選出 参加者推薦により決定。</p> <p>5. 案件</p> <p>(1) 奈良市地域教育推進事業について</p> <p>(2) 平成26年度 アンケート調査の報告</p> <p>(3) 平成27年度 コーディネーター研修について</p> <p>事務局による説明・報告の後、出席者に意見等を求めた。</p> <p>《意見を求めた内容及びそれらに対する意見等》</p> <p>アンケート調査報告などから見える課題点から、事業の本質的議論や成果の見える形の評価ができる体制の構築のために、評価シートを新たに作成する旨が事務局より提案された。その点への意見を聞いた。</p>	

出席者から

- ・活動している現場では子どもたちへの成果は肌で感じる。

出席者から

- ・各校区それぞれ特徴があり、一律の評価では計れない。評価シートのための活動にはなってはならない。

座長から

- ・奈良市はそれぞれの校区が地域の事情を反映し、独自に発展。一律の評価は難しいが、それぞれ目標設定、活動、振り返ることは、評価に縛られるのではなく、活動をよりよくする方法の一つではないかと思う。

出席者から

- ①本懇話会に本事業の放課後子ども教室の関係者の参加が必要ではないか。
- ②アンケート調査報告に「趣旨に沿った活動を行っているのか疑問」とあったが、それに予算がつくことに疑問を感じる。

座長から

- ①奈良市としては地域教育の発展のために両事業を一体として地域教育協議会で運営を進めている。別々に議論をするのではない。総合コーディネーターの代表は、地域で決める学校予算と放課後子ども教室、両方のコーディネーターとして参加。
- ②全く関係のない活動をしているわけではない。より事業趣旨に沿った活動として深めていくために、PDCA サイクルを少しでも意識して進めていくということ。そのためのチャックシート（評価）がどうあるべきかをここで議論し、本懇話会を進めていきたいと理解している。

出席者から

- ・地域で決める学校予算の使い道、事業計画が地域で審議されていない。改善の必要性がある。

座長から

- ・事務局からも課題として提示された、「学校との連携の再確認・組織の強化」とあったように、それぞれの目標とともに予算も協議されることを進めないといけない課題がある。

出席者から

- ・評価シートはどのようなポイントや項目になるのか、聞かせていただきたい。

事務局から

- ・すでに取り入れている校区の評価を参考にしながらこれから作成予定。次回懇話会（12月開催予定）に報告する。

出席者から

- ・こども園になった場合の地域連携についてまた今後教えてほしいと思う。

座長から

- ・地域教育協議会の組織が地域を考える母体として、さらにしっかり協議できる機能していくために奈良市は今後取り組んでいかなければならない。

出席者から

- ・評価・振り返りをするには、テーマや目標が決められる時に、多くの人の協議・共有がなされてるかということにつながっていく。

座長から

- ・チェックをするにも、予算を決めるにも、地域全体で考えていくことが求められている。

出席者から

- ・協議会のプレゼンテーションもセレモニーで終わらせてはならない。

座長から

- ・この事業を地域でしっかり考えて、共有する仕組みが重要。

事務局から、

- ・次回の懇話会は12月中旬開催予定。
「平成27年度 第1回奈良市の地域教育を考える懇話会」を終了。